20241027　降誕節前第９主日・宗教改革記念礼拝

司式：山本典子
奏楽：堀口恵美

前奏：「神はわがとりで」 (D. ブクステフーデ)

招詞：今や、キリスト・イエスに結ばれている者は、罪に定められることはありません。(ロマ8:1)

讃美歌 4「世にあるかぎりの」

交読詩編　8編

01 【指揮者によって。ギティトに/合わせて。賛歌。ダビデの詩。】
02 主よ、わたしたちの主よ/あなたの御名は、いかに力強く/全地に満ちていることでしょう。天に輝くあなたの威光をたたえます
03 幼子、乳飲み子の口によって。あなたは刃向かう者に向かって砦を築き/報復する敵を絶ち滅ぼされます。
04 あなたの天を、あなたの指の業を/わたしは仰ぎます。月も、星も、あなたが配置なさったもの。
05 そのあなたが御心に留めてくださるとは/人間は何ものなのでしょう。人の子は何ものなのでしょう/あなたが顧みてくださるとは。
06 神に僅かに劣るものとして人を造り/なお、栄光と威光を冠としていただかせ
07 御手によって造られたものをすべて治めるように/その足もとに置かれました。
08 羊も牛も、野の獣も
09 空の鳥、海の魚、海路を渡るものも。
10 主よ、わたしたちの主よ/あなたの御名は、いかに力強く/全地に満ちていることでしょう。

朗読聖書①出エジプト記 6:2-13◆モーセの使命

02 神はモーセに仰せになった。「わたしは主である。
03 わたしは、アブラハム、イサク、ヤコブに全能の神として現れたが、主というわたしの名を知らせなかった。
04 わたしはまた、彼らと契約を立て、彼らが寄留していた寄留地であるカナンの土地を与えると約束した。
05 わたしはまた、エジプト人の奴隷となっているイスラエルの人々のうめき声を聞き、わたしの契約を思い起こした。
06 それゆえ、イスラエルの人々に言いなさい。わたしは主である。わたしはエジプトの重労働の下からあなたたちを導き出し、奴隷の身分から救い出す。腕を伸ばし、大いなる審判によってあなたたちを贖う。
07 そして、わたしはあなたたちをわたしの民とし、わたしはあなたたちの神となる。あなたたちはこうして、わたしがあなたたちの神、主であり、あなたたちをエジプトの重労働の下から導き出すことを知る。
08 わたしは、アブラハム、イサク、ヤコブに与えると手を上げて誓った土地にあなたたちを導き入れ、その地をあなたたちの所有として与える。わたしは主である。」
09 モーセは、そのとおりイスラエルの人々に語ったが、彼らは厳しい重労働のため意欲を失って、モーセの言うことを聞こうとはしなかった。
10 主はモーセに仰せになった。
11 「エジプトの王ファラオのもとに行って、イスラエルの人々を国から去らせるように説得しなさい。」
12 モーセは主に訴えた。「御覧のとおり、イスラエルの人々でさえわたしに聞こうとしないのに、どうしてファラオが唇に割礼のないわたしの言うことを聞くでしょうか。」
13 主はモーセとアロンに語って、イスラエルの人々とエジプトの王ファラオにかかわる命令を与えられた。それは、イスラエルの人々をエジプトの国から導き出せというものであった。

朗読聖書②ローマの信徒への手紙 8:28-39

◆将来の栄光(後半)

28 神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています。
29 神は前もって知っておられた者たちを、御子の姿に似たものにしようとあらかじめ定められました。それは、御子が多くの兄弟の中で長子となられるためです。
30 神はあらかじめ定められた者たちを召し出し、召し出した者たちを義とし、義とされた者たちに栄光をお与えになったのです。

◆神の愛

31 では、これらのことについて何と言ったらよいだろうか。もし神がわたしたちの味方であるならば、だれがわたしたちに敵対できますか。
32 わたしたちすべてのために、その御子をさえ惜しまず死に渡された方は、御子と一緒にすべてのものをわたしたちに賜らないはずがありましょうか。
33 だれが神に選ばれた者たちを訴えるでしょう。人を義としてくださるのは神なのです。
34 だれがわたしたちを罪に定めることができましょう。死んだ方、否、むしろ、復活させられた方であるキリスト・イエスが、神の右に座っていて、わたしたちのために執り成してくださるのです。
35 だれが、キリストの愛からわたしたちを引き離すことができましょう。艱難か。苦しみか。迫害か。飢えか。裸か。危険か。剣か。
36 「わたしたちは、あなたのために/一日中死にさらされ、/屠られる羊のように見られている」と書いてあるとおりです。
37 しかし、これらすべてのことにおいて、わたしたちは、わたしたちを愛してくださる方によって輝かしい勝利を収めています。
38 わたしは確信しています。死も、命も、天使も、支配するものも、現在のものも、未来のものも、力あるものも、
39 高い所にいるものも、低い所にいるものも、他のどんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです。

祈祷

聖なる神さま、尊い聖名を賛美致します。どうぞあなたの御国を来たらせてください。今朝も私たち一人ひとりの名を呼んでくださり、教会堂で、オンラインで、また夫々がいる場所で、礼拝を献げられる恵みに感謝致します。先週の全体礼拝では、子供と大人が共に礼拝する喜びが与えられ、この一週間を歩んで参りました。教会学校の中に、今病と闘っているお子さんがいらっしゃいます。どうぞ神さまが守ってください。

一週間の歩みの中で神さまから十分な恵みが与えられていましたが、感謝を忘れ、御言葉から離れてしまったことがあったと思います。この時、悔い改め、主に立ち返り、御言葉に養われる群れとさせてください。

神さま、この礼拝は『教会修養会の開会礼拝』としても献げられています。また『宗教改革記念の日』でもあります。この教会を100年守ってくださり、修養会も94回を数えることが出来、感謝致します。更に、これからの教会を描くために、そして改革し続ける教会であるために、良き学びと交わりとなりますようにお導きをお願い致します。

平和の基である神さま、私たちは今日も平和のために祈ります。全ての人の命が大切にされる日が一日も早く来ますように。そのために私たちができる事をお示しください。先ず本日の選挙では、平和のために祈りながら一票を投じさせてください。そして東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故により苦難を負っている方々を今朝も覚え祈ります。

本日、この礼拝に集えないご高齢の方、病の中にある方、看病している方、弱さ苦しさの中にある方を、また大切な方を亡くして悲しみのある方を主が支えてください。

神さま、今朝の礼拝の説教者を感謝致します。鮎川先生が聖霊を豊かに受けて語ってくださいますように。私たちにも豊かに御言葉を受取ることが出来ますように。

本日献げられています全ての礼拝が、神さまを心から賛美し、神さまに心から祈りを献げる時となりますように祈り願います。

救い主、主イエス・キリストの聖名を通して、このお祈りをお献げ致します。アーメン。

讃美歌 463「わが行くみち」

説教:「唯一の慰め」　　鮎川健一

教会暦も早いもので、一年で一番長い聖霊降臨節を終えて、今朝はクリスマスの恵みに進むべく降誕前第 9 主日を迎えています。キリストを信ずる信仰により、神に忠実でありたいと願う者は日々新たにされてゆきますが、神が天地を造られて以来、全ては神の御手の中にあります。教会のある姿も、新たな息吹を吹かせながら、その存在の意味と事の重大さを問われ続けています。この会堂にいる私たちも、床に伏している者たちと共に、主によって生かされている意味を真剣に問うものとされています。

そこで思い起こしますのは、まず『**ハイデルベルク信仰問答**』の「**問一**」です。「**生きている時も、死ぬ時も、あなたのただ一つの慰めは、何ですか。**」 その答え、少し長いですがお読みします。また現代風にお読みしますので、若干、参考されている方の文書とは違っていると思いますが、お読みします。

「**わたしが身も魂も、生きている時も死ぬ時も、わたしのものではなく、わたしの真実なる救い主イエス・キリストのものであること。主は、その貴き御血潮をもって、わたしの一切の罪のために完全に支払ってくださり、わたしを悪魔のすべての力から救い出し、また今も守ってくださいますので、天にいますわたしの御父の御心によらないでは、わたしの頭からは一本の髪も落ちることはできないし、実にすべてのことが当然、わたしの祝福に役立つようになっているのです。従って、主はその聖霊によってもまた、わたしに永遠の生命を保証し、わたしが心から喜んで主のために生きることのできるようにしてくださる。**」

そしてもう一つは、『**ウェストミンスター小教理問答**』です。その『**問一**』は、「**人のおもな目的は、何ですか。**」 その答え「**人のおもな目的は、神の栄光をあらわし、永遠に神を喜ぶことです。**」とあります。今ある私たちは、このことを日々問われながら、主に懺悔の告白と感謝を献げ続ける者です。

今朝の箇所からまず見えることは、使徒パウロが教会の混乱に右往左往するローマの信徒に向けて、熱いメッセージ、それも神の福音を伝えているということです。使徒パウロはローマの信徒たちに対して、旧約聖書のメッセージを再三確認するかのように、キリスト信仰の確かさへと導き、彼らの苦労が実感できるが故に、同じ信仰を抱く兄弟姉妹を励まします。その中心は、「**神の義**」にあります。

「**神の義**」とは、神の側からの一方的な恵みによって示されるものです。そこで人間は神を知り、罪を自覚させられ、悔い改めの心が露わにされます。神は人間をそこから救い出し、神との正しい関係に導きます。旧約の教えに従ってきた人々がユダヤ教から学んだことは、「**選びの民**」として神に喜ばれていたとするものですが、使徒パウロは、それは自己満足による自己評価と反論します。なぜならば、ユダヤ教の律法における「**正しい行為**」が狭い意味で捉えられ、人間の行為や意志の正しさに集中していることに対して、神の正しさを徹底的に伝えるからです。その裏づけに、「**贖い**」という言葉が現われます。旧約聖書を常に意識して語る使徒パウロは、イスラエルの民がエジプトの地から救われたことを思い起こすかのように、福音の使信を伝えます。先に読まれました出エジプト記にこうあります。「**わたしはまた、エジプト人の奴隷となっているイスラエルの人々のうめき声を聞き、わたしの契約を思い起こした。それゆえ、イスラエルの人々に言いなさい。わたしは主である。わたしはエジプトの重労働の下からあなたたちを導き出し、奴隷の身分から救い出す。**」と。救いの完成をもたらした主イエス・キリストを信じることにより、信じる者すべてに与えられる神の愛を打ち出します。そして、「**そこには何の差別もありません。**」と選民思想を改め、律法主義に囚われている人々に対して、主イエス・キリストを信ずる信仰を持つ故に、人は神に義とされ、救いの光に照らされると伝えます。

科学の発達した今日、多くの宗教や倫理・哲学が教えていることには、「**人は死んでも、肉体が滅んでも、霊魂はいつまでも存在する**」という説があります。そこには死からの不安を克服するかのように、“**目に見えない霊魂の姿だけでも存在し続けて欲しい**”、そういう願いが垣間見えます。“**霊魂の方が本来の人間の姿だ**”と言いたいのでしょう。しかしキリスト教の死の受け止め方は異なります。聖書にある『**神の国**』は現世の延長ではなく、人間の思いの投影されるものでもありません。私たちはキリスト信仰者であってもそうでなくても、神のなさることを支配できないのです。近くも遠くも未来像を決定できません。ただただ神に望みをおき、神の御支配に信頼を置くのみです。そこには、死にとどまらず復活の希望に照らされている約束があります。“**ギリシャの哲学者たちにとって死は、肉体に閉じ込められている霊魂が牢獄としての肉体から開放されること**”と理解していましたが、“**キリスト教での死は、神に敵対するもの**”と認識されています。“**人間が神から離れるという罪から救われることにのみ、死を克服することができる。**”この理解は旧約聖書の創世記から新約聖書の黙示録に至るまで貫かれています。その中では大きな変化があります。それは、主イエス・キリストの誕生にはじまり、十字架と復活の出来事につながります。それによって私たちは、生においても死においても真実の理解を与えられています。聖書には、「**罪が支払う報酬は死である**」(6:23)一方で、「**神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスによる永遠の命なのです。**」と続きます。

聖書において約束されている「**永遠の命**」は、生物学的に生き続けるものではありません。聖書の永遠は、時間的な中に納められないからです。キリストの復活の命に与かること、それが「**永遠の命**」です。私たちの希望は、「**神の子とされること、つまり、体の贖われることを、心の中でうめきながら待ち望んでいます。**」(8:23)ということにあります。私たちは『**主の祈り**』と共に、『**使徒信条**』で、「**身体のよみがえり、永遠の生命を信ず**」と告白します。全ては神の御手にありますから、肉体も霊魂も分離されることなくあります。救いは決して霊魂が肉体から解放されるものではありませんし、肉体も霊魂も共に神によって造られ共に罪に堕ち、共に救われる。これは人生の時間の経過と共に、因果応報の手続きで与えられるのではなく、主イエス・キリストとの出会いによって、殊に十字架と復活において、その信仰において明らかにされます。“**信仰によってのみ**”、希望に満ちた救いの約束に与るということです。

人間の罪と死との決定的な戦いは、キリストの十字架と復活において既に終わっていますし、生を受けている者にとっては、勝利の完成の日を待

ち望むのみです。しかしキリストの誕生によって、“既に来た”ということと“未だ完成されない”との緊張関係は、聖餐の恵みにある復活の主の御体に与かることにおいて許されています。私たちの肉体が霊の体に変えられるのは、虚無に服している被造物全体が神によって贖われ、新たに造られる時です。キリスト信仰には、“いずれ来たり給う主を待ち望む”、終わりの日を希望の中に置く信仰があります。そこにあってこそ、御国に入る日を目指して真剣に神に応える生き方が求められているのです。“待ち望む”とは、何もしないで委ねるのではなく、“行動と祈りによって待ち続ける”ものです。

使徒パウロは、キリストを信じる者は「生きる」ということが、どのような意味をもつものかを課題として、キリストによって私たちは滅びを与える力から解放されていることを語ります。この限りない大きな勝利を私たちに与えて下さったキリストにおける神の愛が、今朝のロマ8:31以下に記されています。そこに至るまで使徒パウロは、キリスト者に敵対して優位・権力をもって前に立とうとする多くの力について述べてきました。そしてこれらの力は決定的普遍的な勝利を見出すものではないことも示してきました。初めの28節では、「神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています。」と力強く宣言しています。この根底には、自己愛や欺瞞よりも、まず第一に、“神が私たちの味方であるという大きな支えがある”ことからです。神が私たちの味方であるということは、神が私たちに対して憐れみをもって対処してくださるということのみならず、神がなさる事柄において私たちの味方であるということです。神は私たちに御子イエス・キリストを与えることにおいて、私たちの益となる行為をされました。神の愛がここにあり、どのような力もこれに反対して立つことはできないのです。となれば、神に選ばれた者たちを訴える者は、神ご自身に対して戦うこととなります。キリストの十字架の死が罪からの解放をしてくださり、復活によって完全なものとされたのです。私たちの罪をこの世に来たりて担い、ご自身の上に引き受けてくださり、また神の右にいまして、私たちのために執り成してくださる、それがイエス・キリストのです。使徒パウロが四つ目に問うた35節が、現実の只中の戦いとして浮かび上がります。キリスト者は、苦しみと死に与ることによってキリストに結びつけられます。それは、キリストと一つになるためです。究極的には、キリストの苦しみと死に与かることになります。

『神の国』とは己の業績や評判のための自己実現や自分本位の快楽を追及する場所ではありません。また現世に失望した者が、この世からの逃避で求める憧れでもありません。主の恵みとその約束の確かさに励まされて、人生の激しい戦いを、勇気をもって貫き通す、その道筋をまことの光をもって照らされる、そこが『神の国』です。信仰者は、主によって与えられたその時々の持ち場立場を、最後まで責任をもって歩み続けるものです。主イエスによる罪の赦しの故に、「主と共に」いるのです。信仰において「主と共に」あるのです。ですから、「世々の聖徒と共に」『使徒信条』を告白しつつ、神の御もとにある者も、この世でまだ残されている者も、共に教会の使命を担うことを神から与えられているのです。神の御もとに召される時は、いつの日かは誰もわかりません。主イエスが私たちのために死んで復活されたことによって、私たちはどんな状況下にあっても、信仰によってキリストと共にあるのです。そこで使徒パウロが語る8:38以下が力強く響き渡ります。

「わたしは確信しています。死も、命も、天使も、支配するものも、現在のものも、未来のものも、力あるものも、高い所にいるものも、低い所にいるものも、他のどんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです。」

この勝利宣言を高らかに掲げる幸いに私たちは生かされます。それだからこそ、なおもキリスト信仰者は、勇気と希望をもって28節の御言葉に“アーメン”と言って応えるのです。「神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています。」と。この御言葉にいかされるべく、信仰をもって主を仰ぎ見つつ神に応える者として、主なる神から与えられたこの世の使命に全うするよう心新たにさせられて、ここから遣わされてまいりたいと願います。

祈りを献げます。

善き知らせを与え給う主イエス・キリストの父なる御神さま、聖名を崇め賛美致します。今朝の御言葉により、使徒パウロの宣教の業を思い起こし、礼拝するに相応しい信仰と生活を顧みるものです。中でも、“どんな被造物も私たちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、私たちを引き離すことは出来ないのです(8:39)”との宣告に力を与えられます。ここから主の御業の偉大さをより深く心に留め、これから持たれます修養会の時をも豊かに導いてください。

宣教の志ある信仰の友の祈りと共に、尊き主の聖名によって御前にお献げ致します。アーメン。

讃美歌:377「神はわが砦」

献金・感謝(橋本義武)・主の祈り(讃美歌21 93-5A)

父なる神さま、聖名を賛美致します。この朝、ここに集められ、またライヴ配信での礼拝に招かれ、御言葉を与えられましたことを心より感謝致します。

私たちは、弱く、己の力に頼むことの出来ないものですが、主の約束の確かさ、主が私たちと一緒に居てくださるという主の御意思の確かさに導かれて新しい一週間の歩みを始めることが許されますように。

修養会の日を迎えることが出来、感謝致します。どうかあなたが特別に私たちのために備えられたこの一日、喜びをもって、また畏れをもって、この修養会を……にとることが出来ますように。

ここにお献げしました物をどうか聖めて、神さまの御用のためにお使いください。

「主の祈り」を共に祈り、新しい歩みを始めさせてください。…アーメン。

派遣:讃美歌89「共にいてください」

派遣・祝福:主イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき交わりが、ここから遣わされていくあなたがたー同と共に、今も後も永遠にあるように。アーメン。

報告:北支区伝道協力委員会から「ワンドロップ献金」のお願い。

後奏:「神はわがとりで」 (M.レーガー)